2026 年 7 月 27 日

報道関係者各位

テックファームホールディングス株式会社
（東証グロース 3625）

テックファーム、企業の AI 駆動開発「内製化」を支援する「AI-DDT」を 8 月より提供開始

開発プロセスの再設計から仕様管理・品質基盤の構築まで伴走し、AI 活用を自社の開発力へ

ICT ソリューション事業を手掛けるテックファーム株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：千原信悟、以下「テックファーム」）は、企業が AI 駆動開発を自社の組織・人材・開発プロセスに取り込み、継続的に実践できる状態をつくる内製化支援サービス「AI-DDT（AI-Driven Development with TechFirm）」の提供を本年 8 月より開始します。独自の仕様管理 AI エージェントとハーネスエンジニアリングを中核に、仕様駆動開発（Specification-Driven Development）の導入、開発プロセスの再設計、チームへの定着までを一貫して伴走。外部ベンダーへの依存を抑えながら、AI 活用のノウハウを社内に蓄積し、品質とスピードを両立する再現性の高い開発体制の構築を支援します。実プロジェクトでは、開発サイクルを従来比 3.5 倍高速化したほか、従来約 1 週間を要していた工程を最短 1 時間まで短縮した実績を有しています。

■AI 駆動開発を「一部の個人利用」で終わらせない内製化が課題に

生成 AI の普及を背景に、AI 駆動開発に取り組む企業は増えています。しかし、ツールを導入しただけでは、活用が一部の担当者に偏り、異動や退職によってノウハウが失われる、案件ごとに進め方や品質がばらつく、外部パートナーに依存したまま自社に知見が残らないといった課題が生じます。さらに、仕様がチャットや議事録などに分散し、変更時の影響範囲を把握しにくいことや、担当者ごとに AI への指示品質・レビュー品質に差が出ることも、組織展開を阻む要因となっています。AI 駆動開発を競争力へつなげるには、単なるツール導入ではなく、企業自身が継続的に改善・運用できる開発体制へ転換する「内製化」が必要です。

■内製化によって得られる 3 つのメリット

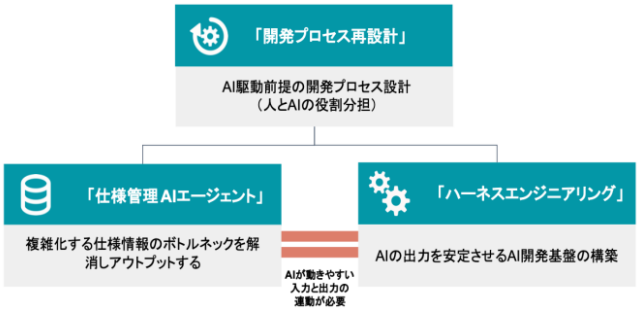
AI 駆動開発を内製化することで、①外部委託だけに頼らず、自社の事業や業務を理解したチームが迅速に改善できる、②開発ノウハウや仕様、判断基準が社内に蓄積され、人材育成や引き継ぎに活用できる、③案件ごとの属人的な成功ではなく、品質と生産性を継続的に高める再現可能な仕組みを構築できる、というメリットがあります。AI-DDT は、単に開発作業を代行するのではなく、実案件を通じてこれらの能力を顧客企業内に移転し、最終的に自律運用できる状態を目指します。

■内製化を阻む壁を超えるテックファーム独自のノウハウ

メリットが多い内製化ではありますが、その導入にはさまざまな壁が存在します。テックファームは、AI ツールの導入や開発代行にとどまらず、企業の担当者が自ら AI 駆動開発を実践し、改善を続けられる状態まで伴走する役割を「AI インテグレーター」と位置付け、推進してきました。そのノウハウを集約した AI-DDT は、人、プロセス、仕様、AI を一体で設計し、仕様を起点に開発を進める仕様駆動開発を基盤として、AI 活用を企業内の標準的な開発プロセスへ統合するサービスです。テックファームが実案件で培った方法論や基盤を提供しながら、顧客企業側に運用ノウハウと改善力が残ることを重視します。

【AI-DDT による内製化支援 3 つの特徴】

AI-DDT では、企業が AI 駆動開発を自律的に運用できる体制を構築するため、次の 3 つの仕組みを提供します。



1. 開発プロセス再設計・伴走支援：
自社で回せる運用体制を構築

AI 活用を前提に、各工程の進め方や人と AI の役割分担、レビュー方法、運用ルールを見直します。テックファームが実プロジェクトへの適用を伴走しながら、顧客企業のチームが自ら実践・改善できる標準プロセスへ移行します。

2. 仕様管理 AI エージェント：知識を組織資産として蓄積

本サービスの核となる「仕様管理 AI エージェント」は、業務フローや機能仕様、判断の背景を共通の仕様基盤に保持します。仕様変更時の影響範囲確認やレビューを支援することで、担当者個人に閉じていた知識を組織資産として蓄積し、引き継ぎや新メンバーの立ち上がりを容易にします。

3. ハーネスエンジニアリング：品質を保ちながら自律運用

アーキテクチャやビジネスルール、セキュリティ要件、テスト条件などを制約として整理し、AI が安定した品質で成果物を出力できる開発基盤を整備します。担当者の熟練度だけに依存せず、企業自身が品質を管理しながら AI 駆動開発を継続できる状態を目指します。

■実案件を通じて得た知見をサービス化

AI-DDT は研究開発から生まれたサービスではなく、開発現場で検証を重ねながら体系化した実践知です。実プロジェクトでは、「開発サイクル 3.5 倍高速化」「1 週間の工程を最短 1 時間へ短縮」などの成果が生まれています。これらの実践知を、顧客企業のチームが自ら使いこなし、改善を続けられる形にして提供します。AI を「導入」や「外注」で終わらせず、自社に蓄積される開発力へ転換します。

AI-DDT サービスサイト：https://www.techfirm.co.jp/ai-ddt

■AI 駆動開発カンファレンスで初公開

2026 年 7 月 30 日開催の「AI 駆動開発カンファレンス 2026 夏」では、テックファーム CTO・石立宏志が「新規開発案件での SDD を使った AI 駆動開発」をテーマに登壇します。会場ブースでは、AI-DDT、仕様駆動開発についても紹介予定です。

＜登壇概要＞イベント詳細：https://www.ai-driven.dev/

- テックファーム登壇日時：7 月 30 日（木）13:50 予定
- 登壇者：テックファーム株式会社 執行役員 CTO 石立宏志
- 形式：現地参加（最大 300 名）＋オンライン（YouTube Live）
- 申し込み方法：現地参加登録：https://aiddcon2026.peatix.com/
  オンライン参加登録：https://aid.connpass.com/event/392229/

■テックファームについて

「ICT に精通したプロフェッショナル集団」として、デジタル技術を活用した事業変革や課題解決のためのソリューションをワンストップで提供。1998 年の創業以来、世界初や日本初のサービス実現に携わり、世界初のモバイルインターネットサービスである NTT ドコモ「i モード」立ち上げ時のシステム開発への参画をはじめとして、モバイル黎明期から多種多様な産業における ICT 活用の経験やノウハウを蓄積する。AI、IoT を活用したデータ収集や分析から、ドローンやスマートデバイス、3D 技術のメタバース領域への活用などの最先端テクノロジーと、多種多様な業界にて蓄積してきた ICT ソリューションに関する知見やノウハウを組み合わせることで、企業における DX などのイノベーションを支援する。

【企業概要】

会社名　テックファーム株式会社
所在地　東京都新宿区西新宿 3 丁目 20 番 2 号　東京オペラシティタワー23F
代表者　代表取締役社長　千原 信悟
設　立　2015 年
資本金　100 百万円（2025 年 6 月末現在）
U R L　https://www.techfirm.co.jp/

※記載の商品名、サービス名及び会社名は、各社の商標または登録商標です。

【本プレスリリースに関する報道関係者の方々のお問い合わせ】
テックファームホールディングス株式会社　コーポレートコミュニケーション室
Email：press@techfirm.co.jp
コーポレートサイトのお問い合わせフォーム：https://www.techfirm-hd.com/contact